

展開例(学年共通)

*授業を始める前に、扱う「音楽を形づくっている要素」を明確にしておきましょう。

本題材における学習(第1時～第3時)

本時の学習(第1時)

(1) ねらい 音楽の初めの印象と、音楽を形づくっている要素を結び付け、曲の特徴
 (「こんな曲」)をとらえる。

(2) 準備 教師：本時のワークシート

教材曲の音源

児童：筆記用具

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点と予想される児童の反応	評価規準
1 本時のめあてをつかむ。	5分	○本時は、教材曲を聴いてどんな曲なのか、曲の特徴＝「こんな曲」を考える時間であることを伝える。	
2 教材曲を聴いた最初の印象を、「曲の印象を表す短い言葉」で表す。	5分	○必要に応じて、要素のとらえやすい部分を、取り出して聴かせる。 ○言葉が思い浮かばない児童への配慮として、語彙を例示しその中から選ばせるようにする。	
<p>例示する語彙について</p> <p>【怒り・不快の気分】【落ちついた気分】【悲しい・寂しい気分】 【驚き・意外の気分】【恐怖・不安・心配の気分】【楽しい・うれしい気分】</p> <p>以上の六つに分類した気分の中から、曲趣にふさわしい気分を4種類程度選び、その気分ごとに三つ程度の語彙を例示する。</p> <p>例</p> <p>うるさい、けんかをするような、うっとうしい(怒り、不快) ほのぼのした、ゆったりした、暖かい(落ち着き) 不気味な、緊張した、ぞっとする(恐怖、不安、心配) 元気な、かわいらしい、はぎれのよい(楽しい、うれしい)</p> <p>参考：別紙 曲の印象を表す短い言葉例</p>			
3 「曲の特徴」をとらえる。	15分	○なぜ「曲の印象を表す短い言葉」のように思ったかを考えさせる。 ○その際「理由は□が□(だ)からです」という曲の特徴を知覚するテンプレートを与え、音楽を形づくっている要素とその状態を表す言葉を□の中に入れてさせる。前後のどちらに要素が入ってもかま	

		わない。	
		<p>児童の反応例 「(びっくりしたのは) 音の大きさが、急に大きくなったからです。」</p> <p>○要素を表す言葉が思い浮かばない児童への配慮として、要素を表す語彙を例示しその中から選ばせる。</p>	
		<p>例示する語彙について 本題材にかかわりのある「音楽を形づくっている要素」、又はそれを児童に分かりやすく言い表した語彙を含めて例示する。</p> <p>例 大きさ、強さ、リズム、メロディ、やりとり、スピード</p>	
		<p>○曲の特徴を早く書けた児童には、感受につながる発展課題として「まるで□□みたいです」というテンプレートを与え、□□に想像した様子を書かせる。</p> <p>児童の反応例 「まるで、ライオンが急にでてきたみたいです。」 「まるで、後ろからおどかされたみたいです。」</p>	
4 「曲の特徴」の様々なとらえ方を知る。	15分	<p>○教師の問いと児童の応答により、児童がとらえた「曲の特徴」を発表し合い、交流して、様々なとらえ方に触れさせる。</p> <p>○ねらい以外の要素をとらえた児童には、そのとらえ方を認め、賞賛するとともに、交流の中でねらいとする要素に気付かせるようにする。</p> <p>○友達のとらえた「曲の特徴」や「気分」の中で、気に入ったものがあれば、その都度ワークシートに記入し、とらえ方を広げさせる。</p> <p>○児童の発表したことを、類型化して板書し、様々な「曲の特徴」を整理してとらえられるようにする。</p> <p>○類型化の観点は【怒り・不快】【落ち着き】等、曲の印象を表す短い言葉から感じ取れる「気分」とし、一つの音楽であっても様々な気分を感じることができ理解させる。</p>	○音楽を形づくっている要素「○○」を聴き取り、曲の特徴をとらえながら聴いている。 (ワークシートへの記入、観察)
5 本時のまとめをする。	5分	○教材曲を聴きながら、とらえ方を確認する。	

本時の学習（第2時）

(1) ねらい 曲想を基に「短いお話」を作り、音楽のよさを感じ取りながら聴く。

(2) 準備 教師：本時のワークシート、(前時のワークシートを事前に返却しておく)
教材曲の音源

児童：筆記用具、前時のワークシート

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点と予想される児童の反応	評価規準
1 本時のめあてをつかむ。	10分	<p>○教材曲を聴き、前時の学習を思い出せるようにする。</p> <p>○本時は、音楽を聴いて、どんな感じの曲なのか(こんな感じ)を考える時間であることを伝える。</p> <p>○前時で学習した事項の復習をする。特に、教材曲に関連のある要素と、類型化した観点について、板書して確認できるようにする。</p>	
2 教材曲を聴いて想像したことを、「短いお話」に表す。	20分	<p>○曲想からイメージできる様子を、自分なりに想像させ、ワークシートに記入させる。その際、前時のワークシートに記入した事項を参考にしてもよいことを伝える。</p> <p>○席が隣の児童2人(3人)で話し合い、交流しながら、教材曲から感じ取った曲想を基に「短いお話」に表すよう指示する。その際、参考にいくつかの「短いお話」を例示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>児童の反応例</p> <p>「友達が、後ろからそうっと来て、びっくりさせた」</p> <p>「歩いていたらライオンが出てきて、こわくて大きな声を出した」</p> </div> <p>○児童の活動の様子を見て、教材曲を聴きながら、話し合いができるように、時々音楽を流す。</p> <p>○早く書けたペアは、より詳しいお話を作るように指示する。</p>	
3 「短いお話」を発表し合う。	10分	<p>○教師の問いと児童の応答により、表した「短いお話」を発表し合い、いろいろな感じ方があることを知ることができるようにする。</p>	<p>○楽曲から想像したことや感じ取ったことを、短いお話に表し、音楽のよさを感じ取って聴いている。</p> <p>(ワークシートへの記入、観察)</p>
4 本時のまとめをする。	5分	<p>○自分や友達が考えた「短いお話」の様子を想像しながら教材曲を聴き、教材曲のよさや面白さを感じ取ることができるようにする。</p>	

本時の学習（第3時）

(1) ねらい いろいろな「短いお話」からイメージを膨らませて「自分のお話」を作り、音楽の醸し出す様子を想像しながら、味わって教材曲を聴く。

(2) 準備 教師：本時のワークシート

教材曲の音源

前時に児童が作った「短いお話」を書いた短冊(提示用に拡大)

児童：筆記用具

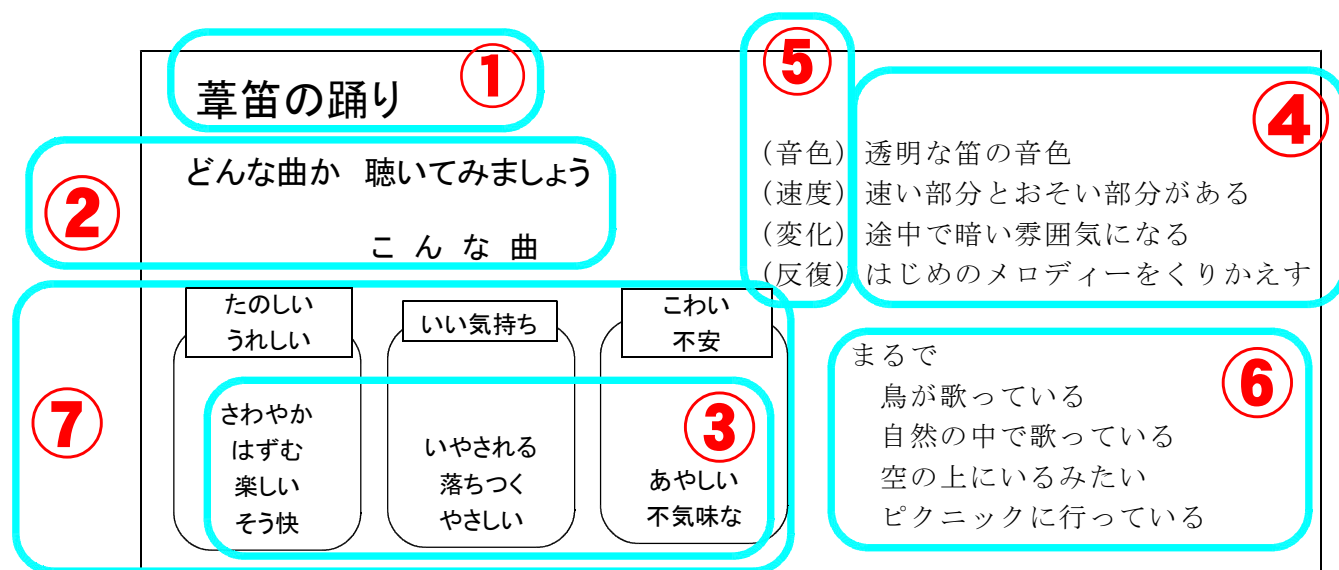
(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点と予想される児童の反応	評価規準
1 本時のめあてをつかむ。	10分	○教材曲を聴き、前時の学習を思い出せるようにする。 ○本時は、好きな「短いお話」を選んだり、参考にしながら「自分のお話」を作り、それを想像しながら聴く時間であることを伝える。	○教材曲から想像したことを、短いお話に表して、曲想を感じ取り、音楽を味わって聴いている。(ワークシートへの記入、観察)
2 「自分のお話」を作る。	15分	○前時に児童が作った「短いお話」を掲示して、「短いお話」を交流し、その中から、好きなお話を選んだり、参考にしながら、「自分のお話」を作らせる。 ○その際、掲示するすべての「短いお話」について簡単にコメントし、イメージをもたせやすくするとともに、同じ曲でも様々な感じ方が理解できるようにして、イメージを膨らませる。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 「自分のお話」の評価規準 低学年：「気分」が短いお話の中に表されている。 中学年：「曲想とその変化」が短いお話の中に表されている。 高学年：「曲想とその変化など(注)」が短いお話の中に表されている。 </div>			
3 「自分のお話」の様子を想像しながら味わって教材曲を聴く。	10分	○自分の作ったお話の様子を想像しながら、教材曲を聴かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 児童の反応例 嬉しそうに聴いている、楽しそうに聴いている、音楽に合わせて体を動かしながら聴いている、目を閉じて静かに聴いている など </div> ○音楽に浸りながら聴くことができるようにする。	
4 本時のまとめをする。	10分	○ワークシートに学習の振り返りを記入させる。	

注：曲想とその変化など：「曲想とその変化」に加えて、「音楽の流れ」「音楽の移り変わり」「音楽の豊かさ」など

板書について *児童の実態等を考慮し、教師の裁量で板書の順番や言葉を変更する。

板書例解説 (第1時)

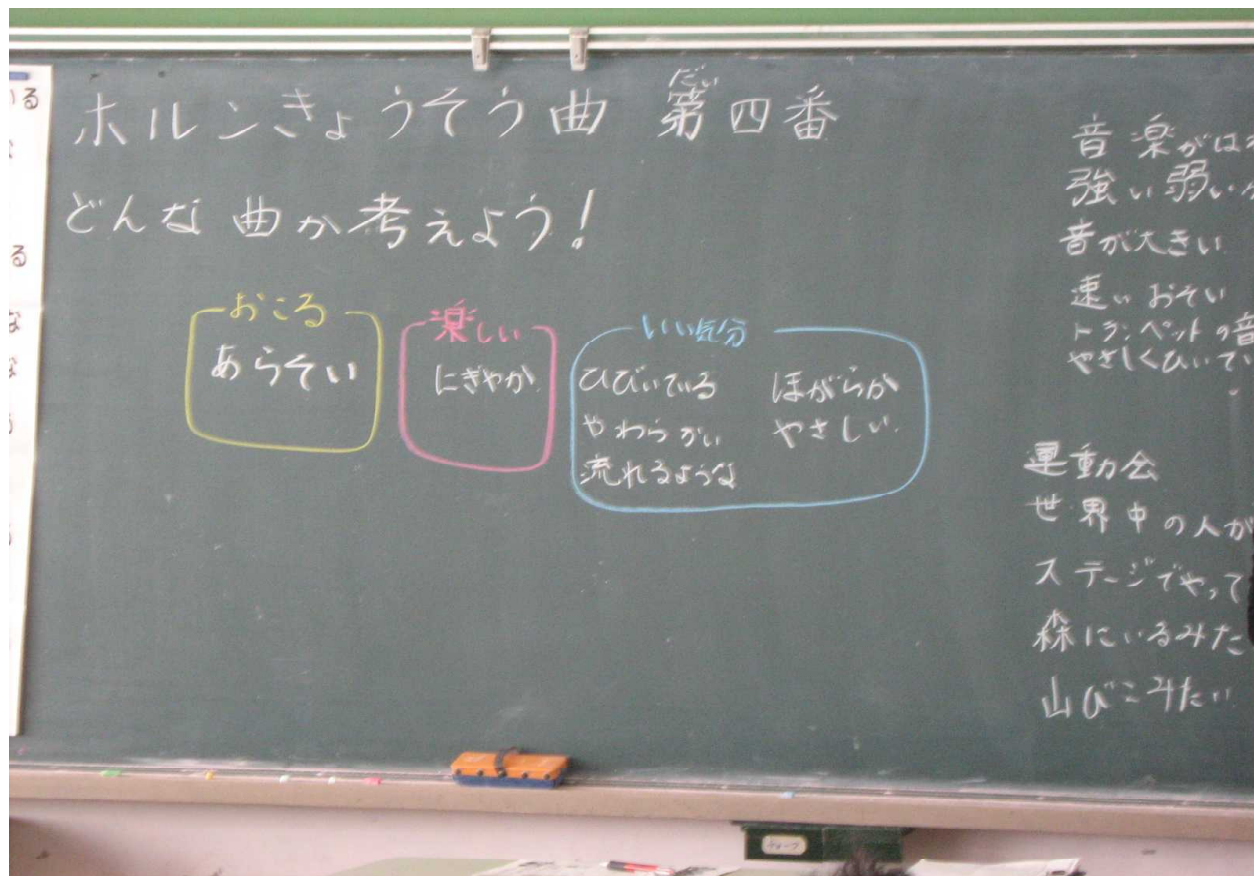


板書順	板書内容	留意事項
①	曲名	イメージの幅を限定する可能性のある場合については、曲名を示さず、題材名などを板書することも検討する。
②	めあて	本時のめあてを示す事項を板書する。
③	曲の感じを表す短い言葉	ワークシートの「こんな曲だと思います」の部分。気分を観点に類型化することを見越して、気分ごとに分けて書く。 4種類程度の気分が感じられる「曲の感じを表す短い言葉」を例示するが、児童から出てくるものが4種類にならない場合もある。(上の板書例では3種類) 同じ言葉でも、違った気分を感じさせる言葉もあり、様々な気分が感じ取れることをとらえさせることが目的でもあるので、厳密に類型化することにとらわれすぎる必要はない。
④	こんな曲 (曲の特徴)	ワークシートの「理由は～」の部分。児童の発言の要点を板書する。
⑤	音楽を形づくっている要素	④にかかわる音楽を形づくっている要素。ねらいとする要素は、必ず板書する。学年段階により、児童に分かりやすい言葉に置き換えることも検討する(次項、言い換え例参照)。
⑥	イメージ	ワークシートの「まるで～みたいです」の部分。児童の発言の要点を板書する。
⑦	気分、類型化の枠	③で分けて書いておいた曲の感じを表す言葉に、それぞれのグループから感じられる気分と、それを囲む線を板書する。

音楽を形づくっている要素の言い換え例

音楽を形づくっている要素	言い換え例
音色	音
速度	はやさ スピード
旋律	メロディー
強弱	大きさ 強さ
和声の響き	ハモリ 響き
反復	くり返し
問いと答え	やりとり 掛け合い

実際の板書例（3年生）



葦笛の踊り ①

どんな感じか 聴いてみましょう ②

④
音色
速度
変化
反復（くり返し）

③
こんな曲

たのしい
うれしい

いい気持ち

こわい
不安

こんな感じ

散歩、踊っている、歌う、飛びまわる鳥

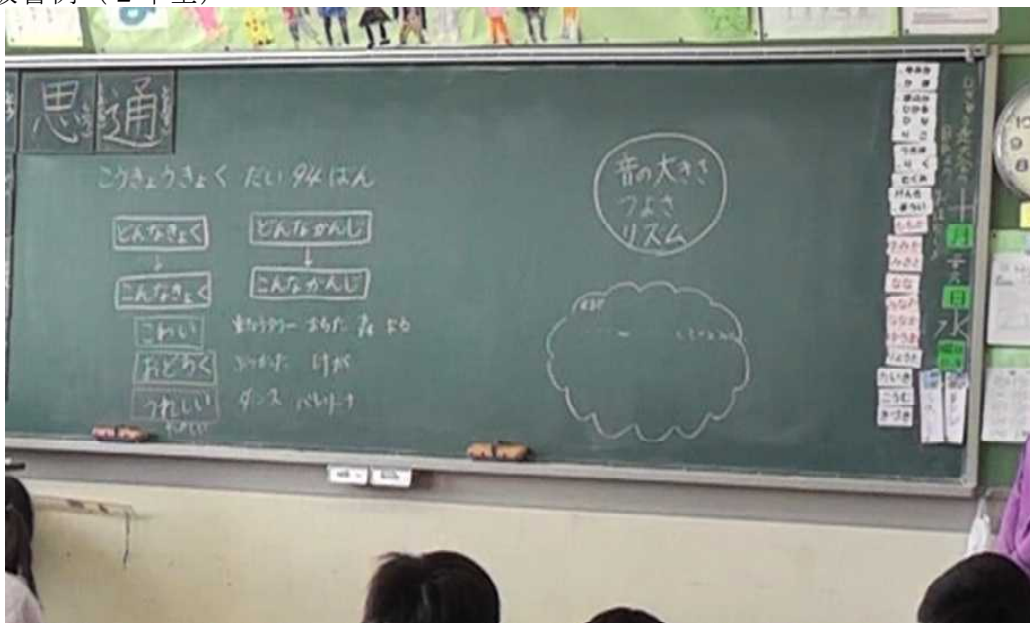
草原、小川、妖精たちの踊り、昼寝、雲の上

古いお城、クマ、暗い森

⑤

板書順	板書内容	留意事項
①	曲名	イメージの幅を限定する可能性のある場合については、曲名を示さず、題材名などを板書することも検討する。
②	めあて	本時のめあてを示す事項を板書する。
③	類型化した気分	前時に類型化した気分を板書する。
④	音楽を形づくっている要素	前時におさえた音楽を形づくっている要素。ねらいとする要素は、必ず板書する。学年段階により、児童に分かりやすい言葉に置き換えることも検討する。
⑤	こんな感じ	児童が発表する友だちと一緒に作った「短いお話」の中から、キーワードとなる言葉を、類型化した気分ごとに、分けて書く。一つの「短いお話」の中から、複数の言葉を取り出す場合や、違う気分に分けられる場合もある。

実際の板書例（2年生）





「〇〇（曲名）〇〇」
って、どんなきょくですか？

こんなきょくだとおもいます



りゅうは

が

からです

まるで

みたいです



ともだちがいったことで いいなあとおもったこと

第1時用ワークシート



ねん くみ なまえ

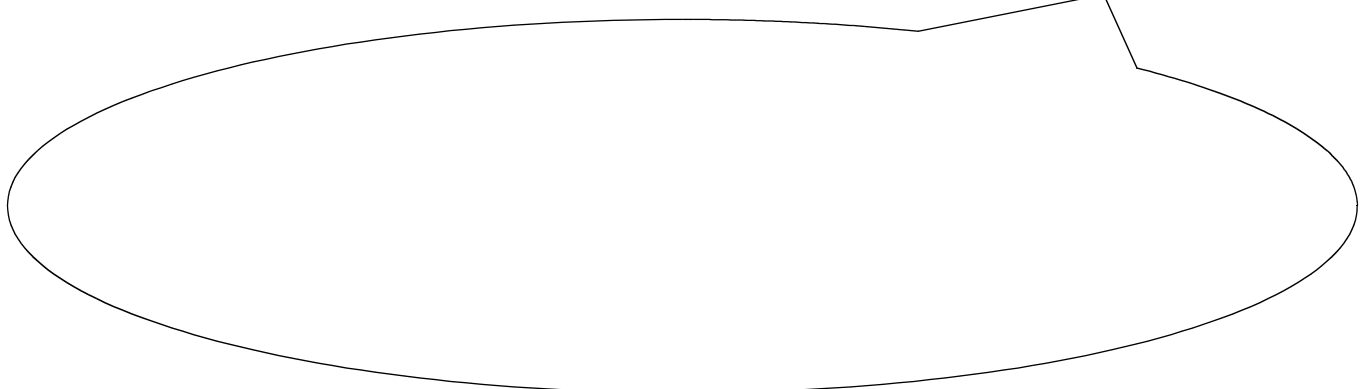
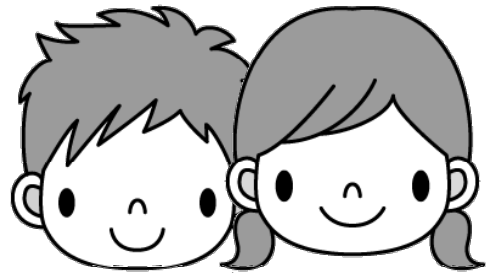


「〇〇（曲名）〇〇」
って、どんなかんじですか？

こんなかんじだとおもいます



ともだちといっしょに、
おはなしをつくってみましょう



第2時用ワークシート

ねん くみ なまえ



「〇〇（曲名）〇〇」
には、どんなおはなしがいいですか？

こんなおはなしがいいとおもいます



おはなしのようすを そうぞう
しながら きいてみましょう

そうぞうしながら
きけました

おはなしのようすを
そうぞうしながら
きけましたか



そうぞう
できませんでした

かんそう

第3時用ワークシート



